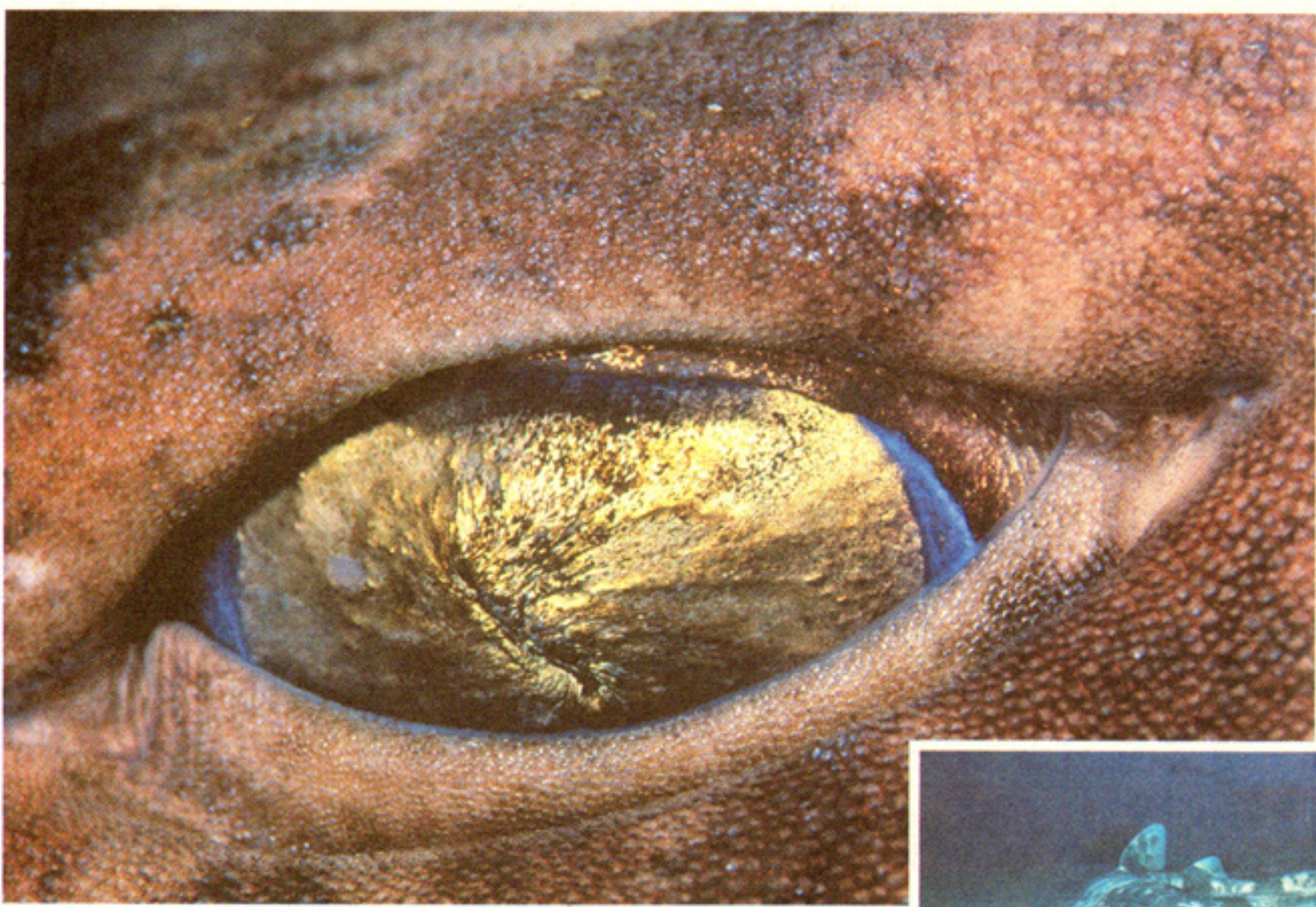


撮影地 東伊豆・八幡野沿岸



強烈な生命力

黄金色に輝くナヌカザメの目は細長く、下側に未発達のみぶたがある。体が大きいばかりでなく、その顔つきがいかに陰険な感じだが、カメラを持って近づくと何を何者と見ているのだろうか。

で、ナヌカザメと名が付いた。このように強烈な生命力を持つているのは、このサメが空気を吸うことと関係があるという。

伊豆の海から

彼らの腹はぶよぶよとして、空気を吸ったたりすると、フグのように膨らむ。ほとんどのサメは浮きぶくろがないので、泳ぎ続けなければ浮力調整ができない。その点、彼らは空気を腹にためるので浮力はぐんと増し、少しの間なら思い通りの所で静止することが出来る。また、腹を膨らませることで、敵を威嚇する効果もあると考えられる。

捕らえて7日間、陸に放置しても生き続けるというの

サメは浮きぶくろがないので、泳ぎ続けなければ浮力調整

整ができない。その点、彼らは空気を腹にためるので浮力はぐんと増し、少しの間なら思い通りの所で静止することが出来る。また、腹を膨らませることで、敵を威嚇する効果もあると考えられる。

（水中写真家・伊藤勝敏）